

「人身事故のため、しばらく運転を見合わせます」

今日もアナウンスが響いた。毎日のようにどこかで電車が遅れるその原因の多くが人身事故だ。残念ながら日本は世界でも自殺者が多い国だ。

確かに、人生には苦しく、つらい日が続くこともある。だが、なぜ自ら命を絶たねばならぬほど絶望してしまうのだろう。なぜ、われわれはその命を救えないのだろう。

ふと、求職活動をしない若者の「無業」が増え続けているという話を思い出した。そのほとんどが、けがや病気で就職が困難だからという。一方で、「誰とでも取り換えがきく使い捨ての惨めさがあるから働きたくない」という考えもあると聞き、ひどく胸が痛んだ。

だが、生きがいや誇りを持つ仕事と、持てない仕事があるのではない。自身が生き

若者よ、勇気と希望を持って



がいや誇りを持つと、仕事に向かうかどうかだけなのではないか。

イタリア留学中に聞いた話が思い浮かぶ。その昔、人の動力しかない時代、イタリアの教会を建てるには何世代にもわたって作業を受け継がなければ完成しないものがあった。同じタイルを張り続けている2人の職人に「何をしているのか」と、ある人が尋ねたという話だ。

一人は「毎日、朝から晩まで安い賃金で泥まみれになり、はいつくばってタイルを張っているのだ」と答え、もう一人はこう答えた。

「いつの日か完成し、私の孫か、ひ孫たち、多くの人た

ちが集い、ここで祈りをささげる、われわれの誇りと象徴となる教会のタイルを今、この手で一枚ずつ積み上げているのだ」と。

当時、20代の私にはこの話が強烈に胸に刻まれた。

私からみれば、現代の若者はわれわれの時代より、知識も豊富で開放的。臨機応変で個性的だ。もっともっと自由に羽ばたける能力があるはずだ。いつの時代も生きている限り、苦しみもあるが、若者よ、どうか勇気と希望を持って、愛を信じてほしい。人生を明るく幸せに歩んでほしい。

そんなことを思って、電車の動くのを待った。

(さとう・しのぶ=声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

